

Photo Column

フォトコラム・自然観察



緑陰の佳人

泉原
猛

「コサメビタキ」

よく似たサメビタキやエゾビタキが、より北方で繁殖するため通過するだけであるのに対し、本種は県下に残つて子育てをする。明るい広葉樹林を好む。スギ・ヒノキの造林地が多い本県での個体数は少ない。コケを用いた皿状の巣が、クヌギの横枝などに乗っているのに出会うことがある。

メジロほどの体長ながら瞳が大きく、頭部も幾分大きめ、ウグイスなどとは異なり枝にとまった姿勢が垂直に近い。灰褐色と白色の地味な出で立ち、囀りさえ小声で秘めやかである。

九月の緑陰に憩う姿は、これから渡つていかねばならぬ越冬地・東南アジアへの長い旅路を思っているようにも見える。昨今の世相からは懸け離れた控え目な風情の、ある日ある所で出会った長く心に残る佳人の面影をしるばせる。

いずはら・たけし 一九三五年、東宇和郡城川町生まれ。環境庁環境カウンセラー、県生涯学習推進講師。文芸誌「原点」同人。昨年来、母校十原小学校の全校生徒四十五人と探鳥会などを行う。過疎地の厳しさのうちに、豊かな自然に抱かれて育つ子供たちの健やかさに感銘を受ける。(写真は一九八六年九月二十二日伊予市大谷池にて)

文化愛媛 No.45 ￥500(税込)
発行所/平成12年(2000)10月1日
発行所/愛媛県松山市一番町4-4-2
財団法人愛媛県文化振興財団